

ぶらり らいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 279



*利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
【書名の後の（）の数字は（請求記号 保管場所 資料番号）です。】

（問）小学校高学年の夏休みの自由研究で、戦時中の子どもたちの慰問活動について調べている。子ども向けの図書とあわせて大人向けの図書も調べてみたいが、それぞれどのようなものがあるか知りたい。

（答）昭和館図書室では子ども向けの資料を「児童書」、大人向けの資料を「一般図書」と種類を別けて登録しており、検索端末の詳細検索からそれぞれ指定して検索することができます。詳細検索画面右側の「資料の種類」からお探しの資料のチェックボックスを選択してください。同時に複数の資料を選択することも可能です。

まず、児童書を検索してみましょう。

詳細検索 ⇒ 資料の種類：☑図書・☑児童書 キーワード 慰問 ⇒ 13件ヒット

『100人が語る戦争とくらし 1』（210.7/033/1 開架児童書 060006226）

『平和を考える戦争遺物 1』（210.7/H51/1 開架児童書 060004952）

次に一般図書を探してみましょう。

詳細検索 ⇒ 資料の種類：☑図書・☑一般図書 キーワード 慰問 ⇒ 846件ヒット

ヒット件数が多い場合はキーワードを足して再検索してみましょう。

詳細検索 ⇒ 資料の種類：☑図書・☑一般図書 キーワード 慰問 子ども

⇒ 84件ヒット

『国民学校の子どもたち』（372/Ts21 開架一般 000043671）

『鉛筆部隊と特攻隊』（210.75/Ki39 開架一般 060004956）

7/20～9/8までの間、3階特別企画展会場（きかくてん）で「慰問銃後からのおくりもの」（じゅうご）を開催しています。図書室では企画展にあわせ、ハングオールにて関連図書を（しょうかい）紹介しています。ぜひご覧ください。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。

検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。

操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。



戦時中、ビールは“生活必需品”だった？



梅雨が明け、夏がやってきました。夏といえばビール！という方も多いのではないのでしょうか。今回は戦時中のビールにまつわる話です。

日本にビールが入ってきたのは、およそ 170 年前。嘉永六年（1853）に米国のペリー提督が浦賀に訪れた際に幕府への土産としてビールが持ち込まれた、とされています。

明治 3 年（1870）、外国人醸造技師の 2 人が横浜の山手通りでビールの醸造を開始、国産ビールの第 1 号として居留地の外国人と上海方面への販売を開始しました。その後、ビール会社が乱立しますが、明治 39 年（1906）3 月 26 日、日本麦酒株式会社・札幌麦酒株式会社・大阪麦酒株式会社の 3 社が合併して、大日本麦酒株式会社が誕生し、シェア 70% を占めるまでになります。

昭和 16 年（1941）12 月に太平洋戦争が勃発し、食糧事情が悪化するなかで、昭和 15 年（1940）1 月には政府からビールの 20% 減産という指示を受け、同年 6 月には京浜地区で家庭用ビールの配給制度が実施されます。昭和 17 年（1942）まで家庭用のほかに業務用（料飲店向け）、価格特配（冠婚葬祭、出征兵士用）といった用途別に割当数量を決め、切符制により配給を行いました。原材料の調達もままならない中で、当時の生産事情を推察できる資料として、昭和 19 年（1944）11 月 25 日付け麒麟麦酒製造部から仙台工場長にあてた通達があります。悪条件下にあってもなお、大蔵省がビールを「生活必需品」として、その最小限度の生産確保を方針としていたことが分かります。

（原文）

生活必需物資製造二関スル件

拝啓今般麦酒統制会社本支社連絡協議会席上ニ於テ監督官庁タル大蔵省主税局国税第二課吉田事務官ヨリ大蔵省トシテハ麦酒モ日本酒同様生活必需品ト見做シ其ノ最小限度ノ生産量即チ現在程度ノモノハ極力確保致度之ニ要スル資材ノ如キモ当局トシテモ万難ヲ排シテ確保致スベキニ付当事者ニ於テモ之ニ対スル責任ト自信トヲ以テ一層其ノ与エヘラレタル使命ニ邁進シ生産溢路ノ如キモ一段ノ熱意ヲ以テ関係当局（税務署ハ勿論特ニ財務局）トノ連携ヲ一層緊密ニシ之ガ打通ニ努力方要望有之候
（一部抜粋）

昭和 20 年（1945）5 月、大蔵省は 9 月以降のビール配給停止の内意を各社へ極秘伝達します。さらに同月、ビールの仕込み停止と生産転移（軍用工場への転換）を内容とする政府方針が指示され、7 月にはこれにもとづいた工場別の実施要綱が決定します。大日本麦酒では目黒工場は薬品製造、川口工場はアルコール製造、門司工場は製塩に転換する計画でした。しかし、工場の設備改造に着手しかけたところで終戦を迎えることになります。終戦間際になるまでビールは減産しながらも製造が続けられ、どれほど生活必需品として扱われていたかが分かりますね。

【参考文献】

『アサヒビールの 120 年』 588/A82 閉架一般 000060632

『大日本麦酒株式会社三十年史』 588/D25 閉架一般 000043472

『ビール物語』 588/I73 閉架一般 000043476

『麒麟麦酒の歴史 戦後編』 588/Ki54 閉架一般 060001563

ぶらりらいぶらりい ~図書室にはこんな本があります~ NO. 279

2024 年 7 月 20 日 発行/ 編集・発行 昭和館 図書室 〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-1